

滋賀県社会福祉学会 第44回大会 開催案内

自由研究発表・実践報告／学会シンポジウム（えにしフォーラム）

大会テーマ

ケアを支える地域福祉実践

- 開催日 令和8年（2026年）2月20日（金）
9:30～16:30（9:00受付）
- 会 場 滋賀県立長寿社会福祉センター
（草津市笠山七丁目8番138号）
- 定 員 300名

主 催 滋賀県社会福祉学会

（事務局/滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会）

滋賀県社会福祉学会 第44回大会のご案内

大会テーマ

ケアを支える地域福祉実践

1 趣 旨

滋賀県社会福祉学会は昭和58年よりスタートし、県内の様々な分野の方々に参画いただきながら、滋賀ならではの社会福祉の実践や不断（普段）の研究を共有し学び続ける場として創り上げてきました。

滋賀ならではの福祉の価値を生み出してきた“滋賀の福祉人”の現場力を共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へつなげる場として開催します。

なお、第40回から、未来へとつながる現場での“実践”をより多くの方に知っていただくことを目的として、「研究発表」に加え「実践報告」の場も設けています。

2 主 催

滋賀県社会福祉学会（事務局：滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会）

3 日 時

令和8年（2026年）2月20日（金） 9:30～16:30（9:00受付）

4 会 場

滋賀県立長寿社会福祉センター（滋賀県草津市笠山七丁目8番138号）

5 日 程

9:00～9:30	9:30～9:40	9:40～9:45	9:45～12:45	12:45～13:45	13:45～16:10	16:10～16:30
受 付	開会式	オリエンテーション （各分科会）	自由研究発表 実践報告	昼食休憩	シンポジウム	閉会式 （奨励賞発表）

※分科会により終了時間が異なります。

6 参加対象

社会福祉従事者、医療・保健関係者、教育関係者、社会貢献に関心のある企業・団体関係者、ボランティア、地域福祉活動実践者、学生、その他福祉に関心のある方

7 参加費（資料冊子代）

一般参加者・発表参加者……………1,000円

大学・短大・専門学校等学生、高校生以下……………無 料

8 定 員

300名

9 申込方法

事前申込制です。参加申込は、以下のいずれかの方法をお願いします。

- ①右記申込フォーム(二次元コード)よりお申込みください。
- ②滋賀県社会福祉協議会のホームページ(<http://www.shigashakyo.jp/>)から申込書をダウンロードいただき、メールで「shiga-gakkai@shigashakyo.jp」あてに送付してください。
- ③別紙「一般参加申込書」に必要事項をご記入のうえ(FAX077-567-5160)に送信してください。



▲申込フォーム

10 参加申込締切

令和8年(2026年)2月13日(金)

11 手話通訳等

<午前プログラム>

自由研究発表・実践報告の時間帯(分科会)において、手話通訳、要約筆記等をご希望の場合は、申込み時にその旨をご記入ください。

<午後プログラム>

学会シンポジウム(えにしフォーラム)については、手話通訳、要約筆記を配置いたします。

12 昼食

各自でご用意ください。

- この「プログラム」や当日配布する「学会要旨集」をご覧のうえ、各自が聞きたいと思う発表に自由に参加することができます。
- 分科会間の移動は自由です。ただし、発表中の移動はご遠慮ください。

開会式・オリエンテーション (9:30~9:45)

- ・ 開会挨拶
- ・ オリエンテーション

自由研究発表・実践報告 (9:45~12:45)

自由研究発表は、社会福祉関係者が日頃から行っている活動や他に先駆けて実施している取り組みなど実践を通して得た発見や示唆を発表し、関係者みんなで学び・励まし合う貴重な場です。

この場で発表・検討されたことがお互いの活動意欲と実践を高め、滋賀の社会福祉向上につながればと思います。なお、本年度も、未来へとつながる現場での“実践”を、より多くの方に知っていただくことを目的として、実践のご報告もいただきます。

1) 発表・報告時間 1題につき、発表・報告15分 質疑応答10分 計25分

※各発表・報告の間には、インターバルを5分設けさせていただきます。
(第3発表と第4発表の間のみ10分)

2) 自由研究発表・実践報告(分科会)分野及び題数 28題

分科会	分 野	題 数
第1分科会	高齢者福祉①	5題
第2分科会	高齢者福祉②／包括的支援	5題
第3分科会	障害児・者福祉	6題
第4分科会	子ども・若者／災害支援	6題
第5分科会	地域福祉	6題

※分科会により終了時間が異なりますのでご注意ください。

分科会の詳細は5~6ページに掲載しています。

3) 滋賀県社会福祉学会 奨励賞

自由研究発表の中から「滋賀県社会福祉学会奨励賞」を選び、研究を奨励します。

また、奨励賞に選ばれた発表は、研究誌『滋賀社会福祉研究』（令和8年度発行予定）に研究レポートを掲載し、広く公表します。

4) 個人情報の保護

発表のなかには、実際の事例等を取り上げたものがあります。事例は発表者が自らの研究成果を披露し、討議することで、参加者と共に研鑽を図ろうという意味で提供されるものです。発表者および参加者は、法令等に基づき、個人情報を保護してください。

学会シンポジウム(えにしフォーラム) (13:45~16:10)

大会テーマ ケアを支える地域福祉実践

高齢や疾病、障害等により日常生活上の援助を必要とする人に対し、家族等の身近な人がおこなう世話や介護は人生の中で誰もが携わり得るものであると同時に、社会の存立に欠かせない営みです。一方で、家庭内等でおこなわれる世話や介護は社会から見えにくく、担い手が一人で抱え込み、社会から孤立したり、自身の望む生活や人生を実現できない場合も少なくありません。

本学会では、令和2年度以降複数の自治体で策定されているケアラー支援に関する条例等を踏まえ、上記のような世話や介護を「ケア」として表現し、すべてのケアラーが切れ目のない支援のもと安心して自分らしく生活し、望む人生の実現を妨げられることのない社会を実現するために、今私たち一人一人ができることについて考える機会とします。

【基調講演】

津止 正敏氏 (立命館大学 名誉教授)

1953年、鹿児島県生まれ。立命館大学大学院社会学研究科修士課程修了。京都市社会福祉協議会を経て、立命館大学産業社会学部教授。2009年3月に「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」を発足させ、代表を務める。著書に『男が介護する一家族のケアの実態と支援の取り組み』、『男性介護者白書一家族介護者支援への提言』など。



【シンポジウム】

伊東 愛氏 (草津市精神障害者家族会 ひまわりの会 会員)

夫が統合失調症・薬物依存症・ギャンブル依存症。他界した父はアルコール依存症で、自身はアダルトチャイルドを自認。夫の統合失調症による陽性症状に困り果てた際、滋賀県精神障害者家族会連合会(鳩の会)を通じてひまわりの会を知り、2024年2月より繋がる。



大町 千恵氏 (will be smile~不登校から多様な学びを考える親の会@大津 世話人)

子どもの不登校をきっかけに、ホームエデュケーションで子どもを育てる。「友だちがほしい」という子どもの声から、在宅不登校の親子を対象としたサークル活動〆びわフリ、を、夫と共に立ち上げ。ニーズに応じて、親の会〆will be smile、や平日昼間の子ども食堂〆唐崎カピバラ食堂、など、活動を広げてきた。〆不登校、という枠に囚われず、親も子もハッピーでいることを応援したい。



桐高 とよみ氏 (特定非営利活動法人ばんじー 甲賀・湖南権利擁護支援センター 所長)

高齢者福祉施設でソーシャルワーカーとして従事しながら滋賀県社会福祉士会で成年後見活動や高齢者・障害者虐待防止の活動を続けている。

現在は、成年後見制度に限定することなく広く権利擁護に関わる相談支援、共生社会を目指した地域づくりを行う。

龍谷大学社会学部非常勤講師。全国権利擁護支援ネットワーク副代表。



(進行) 斎藤 真緒氏 (立命館大学 産業社会学部 教授)

専門は家族社会学。「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」運営委員。思春期保健相談士。(公財)京都市ユースサービス協会の「子ども・若者ケアラー事例検討会」事業の発起人。「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト」発起人。



閉会式 (16:10~16:30)

・ 奨励賞発表

滋賀県社会福祉学会 第44回大会 自由研究発表・実践報告 分科会一覧

分科会 (分野)	第1分科会 (高齢者福祉①)	第2分科会 (高齢者福祉② / 包括的支援)	第3分科会 (障害児・者福祉)	第4分科会 (子ども・若者 / 災害支援)	第5分科会 (地域福祉)
第1発表 (9:45～ 10:10)	【研究発表】 (高齢者福祉) ADL向上への課題意識から始 まった生活リハビリの構築～日常 生活の活動性の向上による良好 なケアを目指して～	【研究発表】 (高齢者福祉) 施設におけるSDGsの取り組み～ 持続可能な未来に向けて～	【研究発表】 (障害児・者福祉) 先人への学びによる影響の有無 と学ぶことの必要性に関する意識 について～滋賀県内の公・法人立 障害福祉施設で働く医療福祉従 事者へのアンケート調査から～	【研究発表】 (子ども・若者) 施設を設立した子ども達の追跡調 査2018-2022～令和の滋賀県 下にある社会的養護施設におけ る自立支援・退所児支援の実情～	【研究発表】 (地域福祉) タブレット導入による民生委員・児 童委員活動の環境改善と地域還 元への実践～単位民児協におけ るICT活用(タブレット端末導入) の実践と経過報告～
	【発表者】 社会福祉法人 青祥会 特別養護 老人ホーム 青淨苑 石和 伸一	【発表者】 介護老人保健施設 坂田メデイ ケアセンター 伊與田 晃子	【発表者】 社会福祉法人 ひわこ学園 田處 浩吉	【発表者】 滋賀県児童福祉入所施設協議会 調査研究部会 田中 佑宗	【発表者】 守山市小津学区民生委員児童委 員協議会 大谷 加代子
第2発表 (10:15～ 10:40)	【実践報告】 (高齢者福祉) 半日型デイサービスにおけるコグ ニサイズと多面的身体機能評価 の取り組み～通所頻度と訓練意欲 が身体機能改善に及ぼす影響～	【研究発表】 (包括的支援) 福祉ケアを支える人材確保策とし てのスポットワークの活用とその 評価～人材不足の解消に向けた スポットワークの可能性と限界～	【研究発表】 (障害児・者福祉) 障害者権利条約の批准から10 年、地域はどう変わったのか?～障 害当事者に聞く～	【研究発表】 (災害支援) 誰一人取り残さない防災を目指し て～ローリスク・ミドルリスク層へ の、マイタイムラインシートを活用 した個別避難計画の展開につい て～	【研究発表】 (地域福祉) フリースペースが果たす役割と支 援効果の質的分析
	【報告者】 株式会社リエゾンケア デイサー ビスリハセンターかけはし 中村 佳子	【発表者】 日野町役場福祉保健課 鎌田 宗純	【発表者】 社会福祉法人ゆたか会 障害者支 援施設 清湖園 内藤 佑介	【発表者】 社会福祉法人 高島市社会福祉 協議会 西村 一真	【発表者】 社会福祉法人 近江和順会 特別 養護老人ホーム レーベンほとが ひら 生賀 達矢
第3発表 (10:45～ 11:10)	【実践報告】 (高齢者福祉) 認知症ケアにおけるオルファクト リートレーニング・デイサービスで の挑戦	【研究発表】 (高齢者福祉) 見守りカメラ導入による業務改善 の効果～業務負担軽減とサービ スの向上にむけて～	【研究発表】 (障害児・者福祉) 特別支援学校に勤務する教師の 支援観の探究について	【実践報告】 (子ども・若者) あしたを楽しみ「おっちゃんのおむ すび商店」～「お姑び」で心をつむ ぎ、こどもが笑顔になる地域づくり をめざして～	【実践報告】 (地域福祉) 障害があっても住みたいところで 住み続けられる地域への実践
	【報告者】 社会福祉法人 近江幸楽会 デイサービスセンターほほえみ 林 直美	【発表者】 社会福祉法人 青祥会 介護老 人保健施設 長浜メデイケアセン ター 川瀬 智士	【発表者】 滋賀県立草津養護学校 森本 晃介	【報告者】 社会福祉法人 甲南会 増澤 典子	【報告者】 一般社団法人 マルチスイッチ 木村 寛子

第4発表 (11:20～ 11:45)	【実践報告】 (高齢者福祉) 私は今、老人ホームに居ます！～記憶障害だから何？ RO法の効果とリハーサルのカ～	【実践報告】 (高齢者福祉) 福祉の仕事になりたい職業ナンバ～1にする～福祉のキラビトロジェクト二期生の挑戦～	【実践報告】 (障害児・者福祉) 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏・かめで』における活動の成果と課題～令和2年度(2020年度)から令和5年度(2023年度)の活動実績から～	【実践報告】 (子ども・若者) 「好き」を出発点にしたアプローチ～生きづらさのある中高生の原動力を応援する居場所づくり～	【実践報告】 (地域福祉) 地域共生社会づくりに向けた若者支援～いつのまにやら講座における若者メンターの役割と影響について～
	【報告者】 社会福祉法人 誠光福祉会 えんゆうの郷 宮嶋 優輝	【報告者】 滋賀県老人福祉施設協議会 榎原 健人	【報告者】 社会福祉法人 さわらび福祉会 支援センター このゆびとまれ 澤 惇子	【報告者】 社会福祉法人 甲賀市社会福祉協議会 久保 実里	【報告者】 #いつのまにやら 山本 尚路
第5発表 (11:50～ 12:15)	【実践報告】 (高齢者福祉) 疾患理解に基づく高齢者の個別ケア—医療的理解を基盤とした介護職のケア展開—	【実践報告】 (高齢者福祉) 感染リスクを低減させる施設の試み 入所セットレンタル開始	【実践報告】 (障害児・者福祉) 入所施設による地域ケアを支える福祉実践～制度を超えた施設の役割～	【実践報告】 (子ども・若者) 子ども・若者・家庭を支える“第3の居場所”から始まる新しい地域のカタチ～笑顔とワークでつくる未来を担う子どもの居場所づくり～	【実践報告】 (地域福祉) 社会教育活動で地域づくり～夢の学習は「ゆりかごから墓場まで」の地域づくりに貢献～
	【報告者】 医療法人社団 昂会 リスタあすなろ 山口 勇樹	【報告者】 介護老人保健施設 草津ケアセンター 米原 光義	【報告者】 滋賀県立近江学園 森 一洋	【報告者】 ばれっとしが 奥野 ふじみ	【報告者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日夢の学習 摺本 圭治
第6発表 (12:20～ 12:45)			【実践報告】 (障害児・者福祉) 盲ろう者への意思決定支援～障害者支援施設における終末期支援～	【実践報告】 (災害支援) もしもに備える防災の取り組み	【実践報告】 (地域福祉) 防災・とよくに子ども食堂—防災を学び、作り、食べる実践を通じた地域交流と支え合いの促進—
			【報告者】 社会福祉法人 近江ふるさと会 障害者支援施設ふるさと 道明 宏美	【報告者】 社会福祉法人 米原市社会福祉協議会 北部デイサービスセンターきたで～ 畑野 雅俊	【報告者】 一般社団法人 ふれあいハウスとよくに とよくに子ども食堂 中村 佳子

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和7年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
	年間保険料		350円	500円

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も左記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの交替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03(3349)5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03(3581)4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ24-10057より抜粋〉

滋賀県社会福祉学会事務局

滋賀の縁創造実践センター

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号 県立長寿社会福祉センター内

電話: 077-567-3924 FAX: 077-567-5160

e-mail: shiga-gakkai@shigashakyo.jp